



白隠の仏教観

仏心の悟りと 輪廻の迷い

柳 幹 康

白隠は江戸時代の禅僧であり、その考えは当然ながら仏教に立脚してはいますが、二百年以上も時を隔てる私たちには必ずしもなじみ深いものではありません。そこで今回は白隠の言葉に基づきながら、彼が前提とする仏教的な世界観を見てまいります。

まず大前提として私たちにはみな例外なく、「仏心」という自性（自己の本性）が欠けることなく具わっているとされています（『寒山詩闡提記聞』巻三）。「仏心」とは文字通り仏の心であり、「（煩惱に塗れた）衆生にあっても汚れたり減ったりすることなく、また（煩惱を滅した）仏にあっても清まったり増えたりすることは無い」永遠不変のものです（『遠羅天釜』巻下）。

ではなぜ人は、そのような素晴らしい仏心を具えているにもかかわらず、邪な妄念をいだき、苦しみ喘いでいるのでしょうか。白隠によればそれは、我々が仏心を見失い、貪り

や臍いひりなど各種の煩惱に覆われてしまつてゐるからです（『寒山詩蘭提記聞』卷三）。つまり問題は、仏心を見て取れるか否か、という一点に集約されるわけです。この点に關して白隠は、次のようにも述べています。

世間のありとあらゆる生き物はみな、……
仏としての本性を先天的に具えている。……
これを見失う時には「六趣輪廻」の世界で永遠に苦しむ凡夫ぼんぶ（煩惱にまみれた存在）となるが、それを見て取ればたちまち最高の悟りを得て、世に並ぶ者なき偉大な仏となるのだ。

（『仮名律 附たり新談議』）

つまり仏心を看取すれば仏、看取できなければ「六趣輪廻」に苦しむ凡夫となる、ということ。この「輪廻」とは仏教の前提となるインド古来の死生観であり、あらゆる生き物は

みな生まれては死に、死んでは生まれ、死と再生を永遠に繰り返していると見ます。その際の生存の有り様として仏教で一般的に挙げられるのが「六趣」であり、具体的には(1)地獄・(2)餓鬼・(3)畜生・(4)修羅・(5)人・(6)天の六趣となります。(1)地獄は極悪人が厳しい責苦を受ける世界、(2)餓鬼は妬み深くケチな者が飢えと渴きに苦しむ世界、(3)畜生は愚鈍な者が転生する禽獸や虫魚などの世界、(4)修羅は鬪争に満ちた鬼神の世界、(5)人は私たち人間、(6)天は樂に満ちた最上の世界です。生前の行為が悪ければ下の世界に、良ければ上の世界に転生するとされます。

どうせ輪廻するのであればよりよい上の世界に生まれたいと思うのが人情でしょうが、残念ながらそれは最終的な解決にはなりません。なぜなら「生天の福は天を仰いで箭を射るが如し、勢力尽きぬれば箭却て落つ」——いくら最高の天に生まれたところで、それは天

に向かい放たれた矢のようなもの、やがては下に落ちてきてしまおう——からです（『隻手音声（藪相子）』）。

かかる輪廻から解脱するために説かれたのが仏教なのですが、実際にそれを聞き実践できるのは六趣のうち(5)人だけだとされます。なぜなら人以外の五種はそれぞれ(1)苦痛・(2)飢渴・(3)愚鈍・(4)鬭争・(6)快樂が妨げとなり、仏道を志すことができなからです（『さし藻草』巻一、『勸発菩提心偈 附たり御垣守』）。これに対しただ人のみが、坐禅や読経・念仏・持戒など仏教の各種実践により、煩惱を除いて本来の仏心に回帰できるのだといえます（『宝鏡窟之記』）。そしてその時、森羅万象はみな宇宙に遍満する仏の眞の姿となり、それまで自身を苛んできた輪廻もすっかりなくなつてしまいます（『兎専使稿』）。それは恰も目覚めれば夢が雲散霧消するようなもの——その喜びについて白隠は次のように述べ

ています。

めでたや、貴や、ありがたや。夢なりける嬉しさよ。生死（輪廻）も涅槃（悟り）も昨夜見た夢。（『夜船閑話』巻下）

いわば白隠にとつて仏教とは、己が仏心に目覚め、輪廻という迷いの夢を解消する道だったのです。

【主な参考文献】

芳澤勝弘「白隠禅師仮名法語・余談（十三）」『禅文化』一七五、二〇〇〇年。

柳幹康（やなぎ みきやす）

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所副所長・准教授。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究——一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*丒切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。



「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花園】第69巻 第8号(通巻第816号)
令和元年8月1日発行(毎月1日発行)
定価55円

【発行人】栗原正雄

【編集人】畠中寿浩

【印刷人】喜田眞司

【発行所】〒616-8035 京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵 「見てござる
いつでも どこでも みほとけは」



どんな時でも見守られていることを
心して自分の行動に責任を持って生き
よう。 絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。